

令和 7 年度
大阪府堺市保健医療協議会 部会審議概要

救急医療体制調整部会

会 議 の 名 称	第 1 回 大阪府堺市保健医療協議会 救急医療体制調整部会
開 催 日 時 等	日時：令和 7 年 9 月 22 日（月） 場所：堺市総合福祉会館 5 階 第 3 研修室
議 題	1. 救急告示医療機関の新規・更新について 2. 「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」について ①＜堺市圏域版＞医療機関リストの更新（令和 7 年度）について ②傷病者の搬送及び受入れの実施基準【大阪府堺市圏域版】の改正について ③医療機関リスト更新要領の再編について 3. ORION データによる救急搬送指標 4. 堺市消防局における救急搬送の現況 5. その他
会 議 の 概 要	<p>議題 1. 救急告示医療機関の新規・更新について（資料 2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規なし。 ●更新対象全 9 病院から申請あり。 二次救急告示医療機関：清恵会病院、阪堺病院、南堺病院、堺フジタ病院、阪和第二泉北病院、馬場記念病院、堺市立総合医療センター、泉北陣内病院、田中病院 ●大阪府救急告示病院認定基準に照らし、実績評価等による審議の結果、9 病院が二次救急告示医療機関として承認された。 <p>議題 2. 「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」について</p> <p>①＜堺市圏域版＞医療機関リストの更新（令和 7 年度）について（資料 3-①-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療機関リストは大阪府実施基準において、毎年、記載内容の変更等を確認・更新することとされており、今年度も救急告示病医療機関に照会した。 ●今年度更新された医療機関リスト（案）は資料のとおりで、承認された。 <p>②傷病者の搬送及び受入れの実施基準【大阪府堺市圏域版】の改正について（資料 3-②-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度、当部会及び本協議会で審議・承認いただいた、救急非告示医療機関（救急告示医療機関以外の医療機関）の、「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」に定める医療機関リスト（第 2 号）への掲載にあたり、掲載根拠、救急非告示医療機関の役割、救急隊の対応を示した「初期対応医療機関における救急非告示医療機関の扱いについて」を傷病者の搬送及び受入れの実施基準【大阪府堺市圏域版】へ追加する。 ●堺市医師会にもご協力いただき、市内医療機関へ募集を行った結果、6 医療機関から 8 診療科について協力申請があった。申請に基づき「大阪府堺市圏域版 救急非告示医療機関リスト」を作成し、実施基準【大阪府堺市圏域版】へ新規掲載する。 申請医療機関及び診療科：山本整形外科（整形外科）、中村まさし内科クリニック（内科）、ばば脳神経外科・救急科・健診クリニック（脳神経外科・内科・外科・整形外科・

小児科・小児軽傷)、きららファミリークリニック(外科・皮膚科)、なかいホームケアクリニック(内科)、たぐちクリニック(内科・循環器内科)

●資料のとおり承認された。

③医療機関リスト更新要領の再編について(資料3-③)

●昨年度、当部会及び本協議会で審議・承認いただいた、医療機関リスト更新要領について、定期更新・随時更新事務を円滑に行えるよう、更新要領の表記を再編した。

●資料のとおり承認された。

議題3. ORION データによる救急搬送指標

●実施基準適合率は、令和5年度は平均73.3%だったが、令和6年度は平均74.2%となっており、令和3年度から上昇傾向にある。

●救急隊が搬送時に疑った3疾患(循環器疾患(ACS)、脳血管疾患、吐下血・消化管出血(疑い含む))について、それぞれの陽性的中率及び感度は以下の通り。

・循環器疾患(ACS) 陽性的中率 平均29.6% / 感度 平均48.0%

・脳血管疾患 陽性的中率 平均63.8% / 感度 平均45.6%

・吐下血・消化管出血(疑い含む) 陽性的中率 平均47.0% / 感度 平均46.1%

●搬送困難事例搬送指標は、感染症拡大期、特に冬期に、搬送困難事例が増加した。また、現場滞在時間も、同様の時期に現場滞在時間が30分以上となる件数が増加した。

●初診時のデフォルトで登録されている処置内容のうち、循環器疾患(ACS)ではPCI、脳血管疾患(脳卒中)では血管内治療、吐下血・消化管出血では内視鏡的止血術が最も多く処置されている。

(意見等)

○循環器疾患に関しては、症状等から疑うことがあっても、特定機能対応医療機関を選択していない場合がある。このため、陽性的中率が低くなるのではないかとと思う。

(質問)

○初診時処置内容において、循環器ACSや吐下血・消化管出血と比較して、脳血管疾患のうち実際の処置に関して、デフォルトで登録されている処置内容の件数が著しく低いのはなぜか。

(部会長回答)

○カテゴリー化されていない臨床的に細やかなものは、その他に含まれている。

(事務局(大阪府)回答)

○初診時処置内容の分母は、救急隊が疑った症例についての処置数ではなく、医療機関に搬送後に脳卒中の診断がついた症例の中で処置数がいくらだったかということになる。

○実施基準では脳卒中も含め、感度を高く傷病者を疑えるようにするため、発症からの経過時間を踏まえた項目を設けていない。従って初診時処置内容の脳卒中の治療法の件数については、発症からの経過時間が影響している可能性がある。発症から時間が

経過しているため、デフォルト登録されている処置が選択されていない可能性がある。
(部会長意見等)

○現在、ORION の改修も含めて実施基準の改修が進んでいる。色々意見をいただいて いいものができるよう期待する。

議題 4. 堺市消防局における救急搬送の現況

- 救急出動件数は、令和 6 年に過去最多の 71,436 件となった。
- 人口 10 万人あたりの傷病程度別搬送割合は、軽症・中等症が全国に比べて高い。
- 告示病院別の平均応需率は、5 年前（平成 31 年度）は 77.1%、令和 6 年度は 69.0%で 8.1 ポイント減となった。

議題 5. その他

○特になし